講義資料

防災センターには、情報収集用システムと、状況判断用システムの２機能が必要
今回は、そのうちの、熊本県版状況判断用システム、“指揮台”を紹介

防災科研（NIED）の協力で完成した・・・

状況判断用
5Dシステム

－　熊本地震オペレーションを題材に　－

熊本県
危機管理防災企画監



話の大前提

防災センターは、

“情報収集所”のみに非ず！

ダメ×　→　報道機関への提供資料を集めている。
ダメ×　→　対策本部会議用資料を収集している。

センター指揮者の状況判断の場である！

防災センターが持つべき機能は、
情報収集と指揮者への状況判断材料の提供

松本副大臣等
「熊本県の指揮･指揮系統はしっかりしている！」

熊本地震発災半年前に概成・・・

☆　防災センター（指揮所）改革



成果があった工夫を紹介

【「防災センター」機能発揮に必要な要素】

コマンド概念

1　センターは、指揮官の状況判断の場であること。

（情報は、指揮官に提供して初めて“情報”になる。）

2　情報共有が容易であること。

3　初心者でも対応できる体制になっていること。

要するに、

本部室要員が、

企画監の意のままに動く体制（態勢）を構築

ポイント

１．“指揮（ｺﾏﾝﾄﾞ）”概念の導入
２．情報共有システム（ｸﾞﾙｰﾌﾟ間）の確立
３．初任者（職員）の戦力化

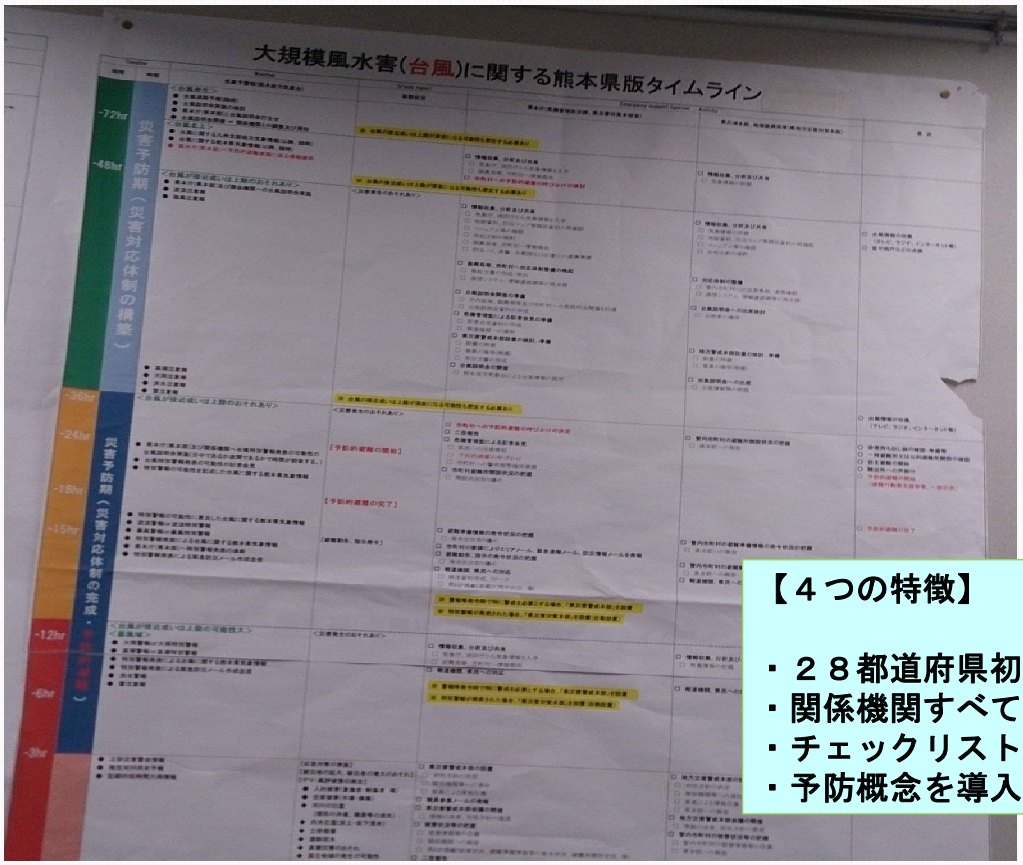
業務予定

チェック事項

何を共通認識として

業務を行っているか？

タイムライン（タイムスケジュールとともに活用）



【４つの特徴】

・２８都道府県初（調査中）
・関係機関すべてを網羅
・チェックリスト方式
・予防概念を導入

ホワイトボード

“ホワイトボード”は、

真っ白のままでの準備ではないか？

初動用ホワイトボード

３分割ライティングシート



これだけ書けばいいシート

指揮者の状況判断

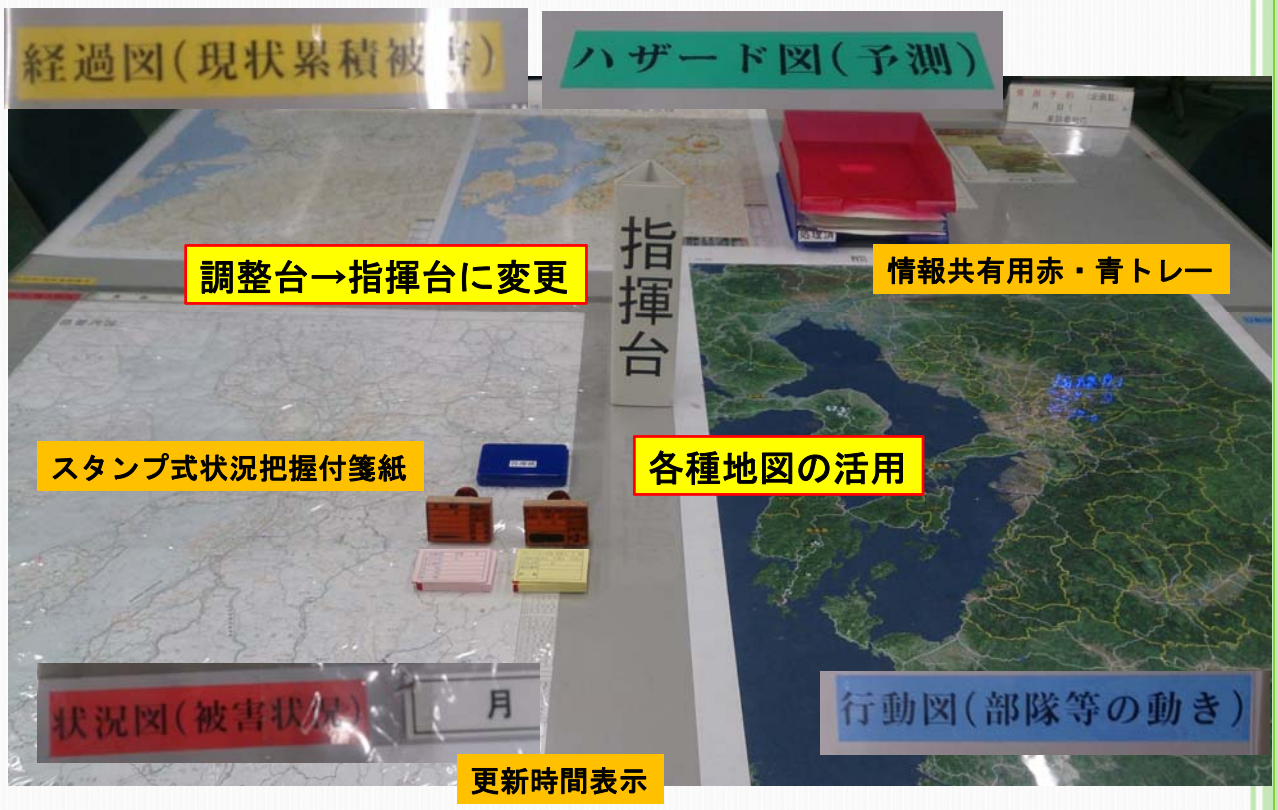
防災リーダーやスペシャリスト

即断即決できる指揮者はいるか？

指揮者が判断できる情報は整理されているか？

指　揮　台

（気象台情報を含めて、５Ｄ思考の材料を整備）



スタンプ式状況把握付箋紙

ＵＴＭグリッド地図
（熊本県内すべての地点を座標番号化）
（各市町村は同一地図を保有）



これだけ書けばいい付箋紙

災害発生場所

オペレーションを可能にした５Ｄシステム

その１つ

「知事、現状について報告します！」から始まった
県の“熊本地震”救命救助・・・

→　実際に行った“知事への状況報告”を再現すると・・

知事への状況報告

事前訓練の成果とスタンプ式状況把握付箋紙の効果

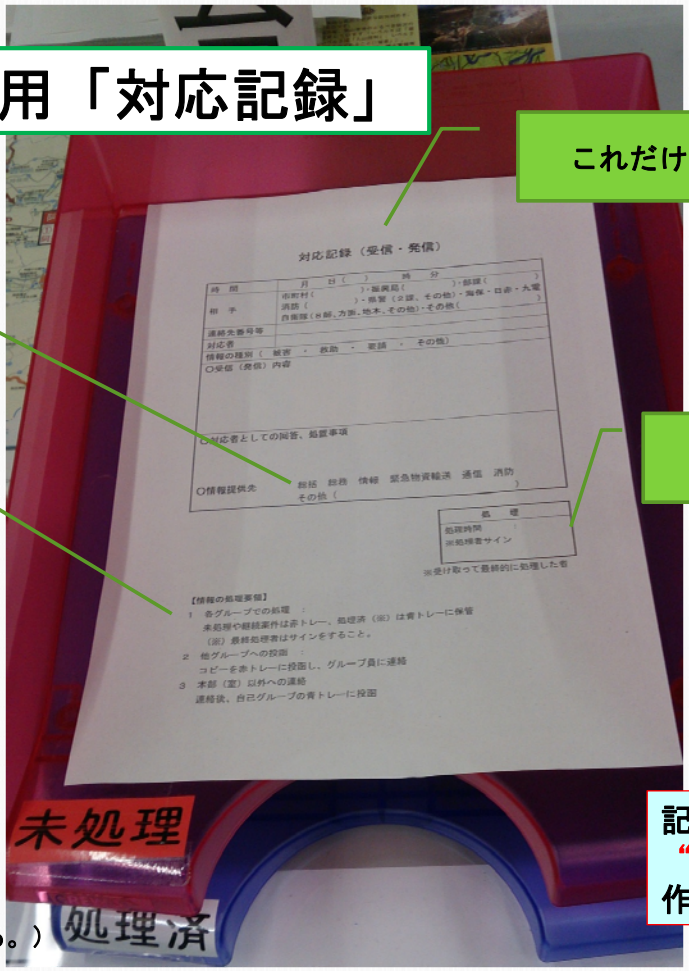


情報共有

各グループは、同じ情報を持っているか？

記録保管はできているか？

情報共有用「対応記録」



これだけ書けばいいシート

配布先記入（わざと○を書かせる。）

使い方説明（マニュアル確認不要）

処理者記録

処理状況
（記録の保管にもなる。）

記録・検証のため“クロノロジー”も作成

指揮台構想はあっても、作れなかった2つのビジュアル図！

○　経過図（現状累積被害図）

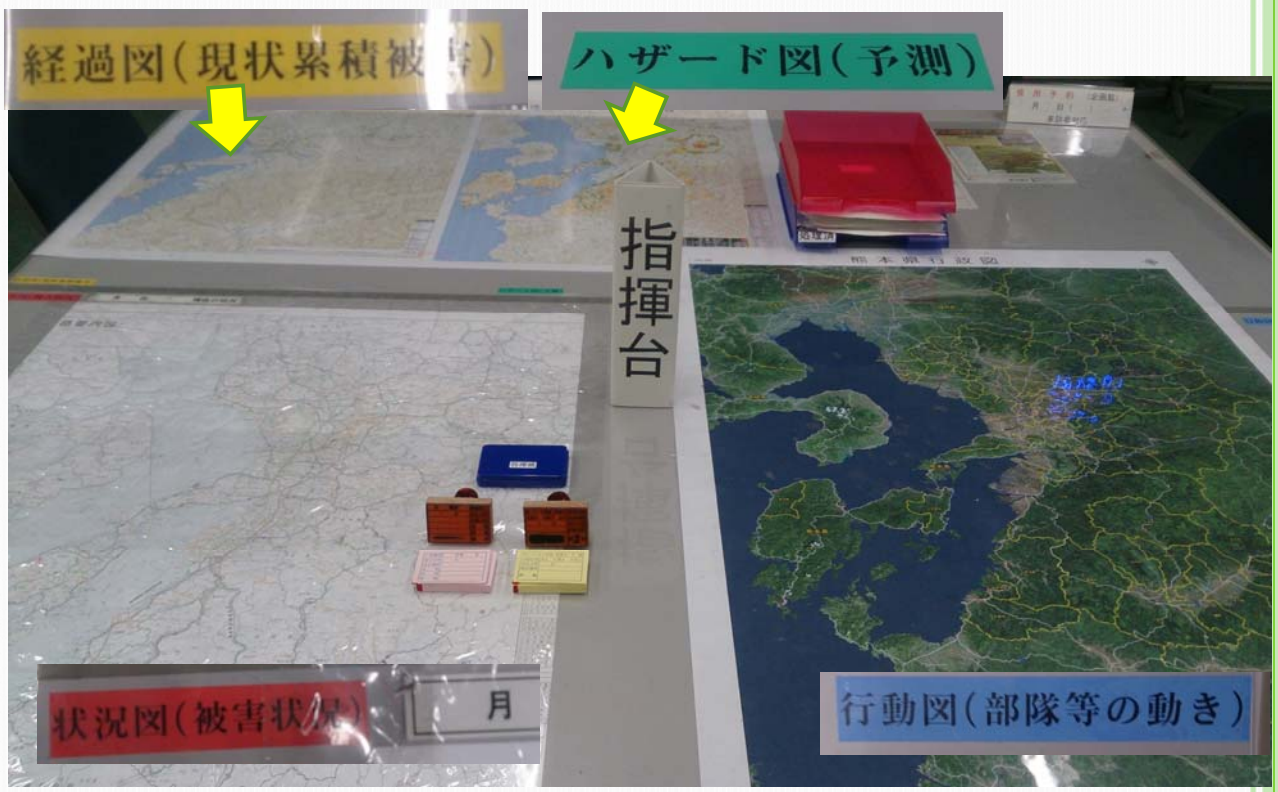
ハザード図（未来予測図）



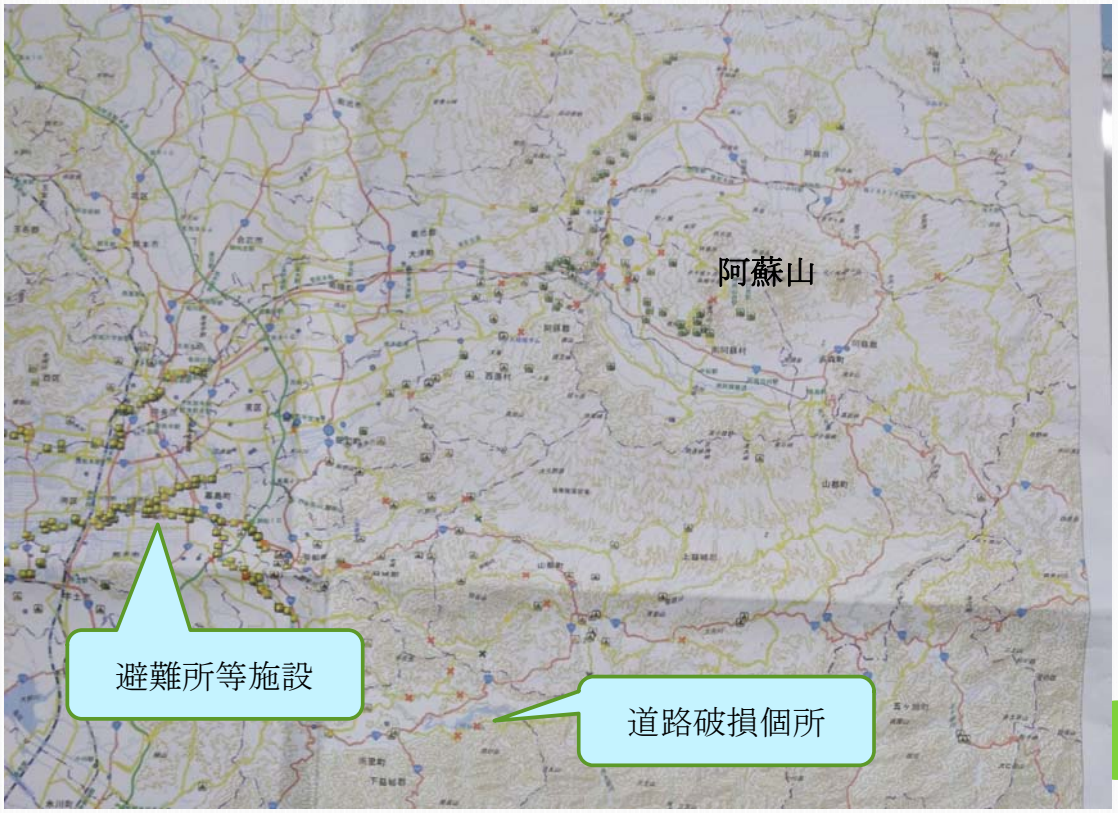
← ＮＩＥＤの協力

指　揮　台

（気象台情報を含めて、５Ｄ思考の材料を整備）



経過図（現状累積被害図）



ハザード図（未来予測図）



２つの地図の効果（例）

○　経過図（現状累積被害図）← 毎日更新

- 避難所等施設を確認できた。
- 刻々と変化する道路被害等の状況を現時点においての一覧にできた。
- 消防、警察、自衛隊等に現時点で通行可能な道路を提案できた。

○　ハザード図（未来予測図）

← 県土木部のハザード図を県域表示

- 熊本県全域の土壌基盤の状態を俯瞰できた。
- 地震とともに脅威だった降雨への事前対処ができた。
  （「立野小学校避難者１５０名移転作戦」の例）

経過図（現状累積被害図）

通行可能な道路の提案





せっかくですから・・・・

☆　西原村と村民が見せた・・・



“あるべき姿”

以上だモン



ご要望にお応えして・・・・

☆　西原村と村民が見せた・・・



“あるべき姿”

「西原村（大切畑地区）の奇跡」



西原村、救出跡の例（ピンポイント救出）

熊本地震（平成28年4月14、16日）

・西原村は震度６強と７の地震が連続発生（28時間内）

・建物の９割が全壊（９名生き埋め）したが、事前の訓練や救助活動等により死者は

0

訓練と自助・共助精神育成の賜物

住民に与えられた役割：避難所運営・被害報告　　キーワード：住民の自主的活動

■ 周到な訓練による「西原の奇跡」

▼ 平成１５年から布田川断層を想定した全村民参加による発災対応型防災訓練を隔年で実施（２７年には、改革型県総合防災訓練にも、村あげて参加）

▼ 地区ごとに地震発生時のシナリオ（道路閉塞、電話の輻輳（ふくそう）等）を作成し、道路状況を加味した避難行動や安否確認、被害状況報告等の訓練を実施（熊本地震では、役場に各区長が自主的に報告）

▼ 寝室まで把握していた消防団の迅速な救出

■ 自主的な避難所運営

避難所内で経験者（元看護師、元自衛官、調理経験者等）を募り勤務員とした。

▼ 自主防災組織が中心となり、自主避難所の開設や運営を、住民自ら実施（トイレ清掃含み、住環境が劇的に改善）

▼ 村も、年齢や健康状態に応じ、避難者にも役割を分担

→　自助努力意識の向上、職員力の他業務への移行が可能に！

ほんとうに、以上だモン

